



学校だより

平成28年 6月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-tky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-tky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.459

河 童 の 川 流 れ

校長 谷田 弘子

6月2日(木)から4日(土)まで、5年生と一緒に「武石移動教室」に行ってきました。3日間とも大変良い天気恵まれ、予定していた活動をすべてこなすことができました。5年生の移動教室をこの時期に行うのは初めてでしたが、ベルデ武石での生活を落ち着いて進めましたし、挨拶や話の聞き方について何度も誉められました。学級作り・学年作りにとっても良いきっかけとなりました。

車山や美ヶ原は標高が高く、風が強かったこともあって、5・6℃の震える寒さでした。澄んだ空気、すばらしい景色の中、グループでの活動を進めていました。夜のキャンプファイヤーや肝試しも十分楽しむことができました。3日目にこの時期ならではの「いちご狩り」をして、思う存分いちごを食べました。200個近く食べた児童もいました。3日間を通して、高学年らしくなった5年生でした。

さて、はじめじめとしたうっとうしい梅雨の季節が終わると、いよいよ本格的な夏の到来です。学校でも、プール開きをし、水泳指導が始まりました。暑い日には、プールの時間を楽しみにしている児童が多くいます。水泳の得意な児童も多いと思うのですが、生き物の中で泳ぐのが得意な生き物とったら、魚、イルカ、アザラシなどが頭に浮かびます。

「河童」は想像上の生き物ですが、泳ぐのが得意だとされています。口先がとがり、背中には亀のような甲羅があり、手足には水かきがあって、頭に水をためた皿をのせているというのが、よく知られた河童の姿でしょう。

この河童を使ったことわざに「河童の川流れ」というのがあります。泳ぎの得意な河童でも、時として水の流れに押し流されること

があるということから、その道に優れた名人、達人でも時には失敗することもあるという教訓を示しています。

これから暑くなると、学校以外のプールで泳ぐことも多くなると思います。水泳の時は学校以外でも同じです。また、海や川、湖で泳いだりする機会も多いと思います。海や川では、自然環境から発生する、プールでは体験したことのない、水の流れや渦、波や潮の流れがあります。川の中で渦に巻き込まれてしまとなかなか上に上がってこれなくなったりすることもあるそうです。

また、海では、潮の流れによって泳げる人でも沖へ沖へと流されてしまうこともあります。湖では、湖底近くに雪解け水が入っていて、湖面近くの水の温度と下の温度が大きく違うこともあります。そのため、水泳の得意な大人であっても、思わぬ事故に遭うことがあります。夏のレジャーは油断大敵です。

「河童の川流れ」ということわざは、泳ぎの得意な人、水の事故のことだけを取り上げて言っているわけではありません。初めてやることには、誰でも慎重に、注意深く取り組むので、うまくできないことがあっても、大きな失敗をすることは少ないと思います。しかし、慣れてくると、だんだん気持ちが大きくなって、慎重さに欠け、思わぬ失敗をすることがあります。普段なら間違えるはずのない簡単な問題でうっかり間違えてしまったとか、ちょっとしたミスからピンチを招き、試合に負けてしまったりします。物事に慣れて、上手になってきたときこそ、慎重にやるのが大切だと思います。これから夏休みまでの14日間、慎重に取り組み、元気に夏休みに入ってほしいと思います。